

第4回 藤枝市認知症とともに生きる共創のまちづくり委員会

主 催：藤枝市 健康福祉部 地域包括ケア推進課

と き：令和7年3月13日（木）午後2時～

ところ：市役所西館5階 第3・第4委員会室

1. 開 会

2. 委員長あいさつ

3. 健康福祉部長あいさつ

4. 議事

（1）第2回認知症とともに生きる共創のまちづくりワークショップのまとめの報告について

（2）藤枝市認知症施策推進基本計画の策定方針（案）について

5. 連絡事項

☆地域包括ケアふじえだプロジェクト☆

令和7年2月12日 VOL. 198

認知症とともに生きる共創のまちづくりワークショップを開催！

誰もが安心して認知症とともに生きることができるまちづくりを進めていくために、多様な世代や立場の方の声や意見から、共に考え、「認知症施策推進計画(仮称)」の策定につなげていくためのワークショップ(全2回)を開催しました。

日 時	参加者	内 容
第1回 (駅南図書館会議室) 令和6年12月15日	延べ104名が参加 (10代～80代までの市民、認知症の本人や家族、学生、お店や企業、医療や介護従事者、市役所職員が参加)	・ 認知症当事者によるリレートーク 「私たちが思う～認知症とともに生きる共創のまち～」 ・ グループワーク
第2回 (生涯学習センター) 令和7年 2月 3日		・ トークセッション「暮らしやすいまちを共に創る」 ～認知症の人・家族・企業それぞれの立場から～ ・ グループワーク



島田掛川信用金庫 支店長

大石 一善氏 働きやすい職場づくり

介護休暇・休業をいかに職員が認知しているかが重要。職員には年2回のヒアリングの中で、介護が必要な家族がいるか確認し、制度について伝えている。介護休暇・休業をとりやすい環境づくりは企業としての課題だと考えている。

長野 雅子氏 家族の思い

旅行やコンサートなど積極的に外出した。サロンに参加し近所の人と過ごし、地域でのふれあいの大切さを感じている。(認知症になってからも)全てが失われることはない。書くことが好きで今でも必ずノートと鉛筆を持ち、感性は失われない。11年経ち、お互いに体力の衰えを感じ、これからどのように向き合っていくか岐路に立っている。本人とともにどう過ごすか考えていきたい。

久保 亜紀子氏

認知症になって分かること

鍵を失くす等の変化があり、受診をして診断を受けた。家事全般が役割。火が心配で安全なコンロに変えた。鍵の紛失にも備え、エアタグをつけて工夫している。友だちにも伝え、変わらない付き合いでランチやスノボも楽しんでいる。周りのサポートを受けながら生きている。悲観的にならず、楽しく生きていきたい。

グループワーク① 安心して認知症とともに生きることができるまちに必要なこと (抜粋)

理解： 当たり前は人それぞれ・子どもの頃から認知症について知る機会がある

本人の声を発信する・いずれは認知症になるという自分事としての理解

自立を後押しできる： 本人が希望を持てる・本人がやりたいことを続けられる

失敗しても良いから挑戦できる環境・工夫を一緒に考える

支え合い： 困ったときに頼める、相談できる・できないところを分かってくれる

柔軟に声かけられる、助け合いが自然にできる

環境： 買い物での支払いが安心してできる・安心して移動できる交通手段がある

認知症になってからも働ける・家族も働き続けられる

本人も家族も垣根を作らず集える場所がある・水路等の蓋や安全な歩道

相談体制： 自分から意思表示できる・本人が自分で相談しやすい場所がたくさん

あること・家族のケア・声をかけ繋げる役割の人が多くいる



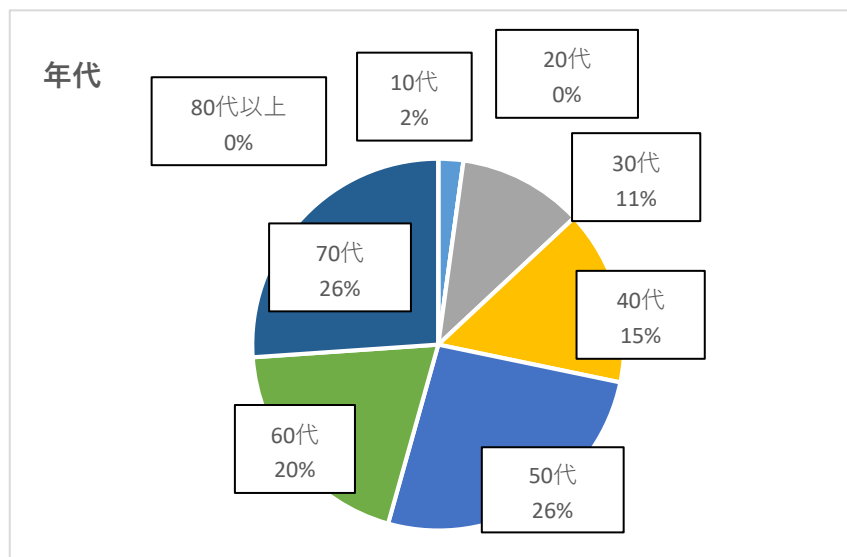
国の「認知症施策推進基本計画」では、認知症の人や家族の暮らしは様々な分野にまたがるため、関係部局間で分野横断的に取り組むことが重要であると示されています。本市でも市、及び多様な主体がそれぞれの個性と能力を発揮し、創意工夫により新たな発想や取組、仕組みを創出する「共創」により「認知症施策推進計画(仮称)」の策定や認知症施策を総合的な取組として推進していきます。



- ・日 時 令和7年2月3日（月）14時00分～16時30分
- ・場 所 生涯学習センター ホール
- ・参加者 54名

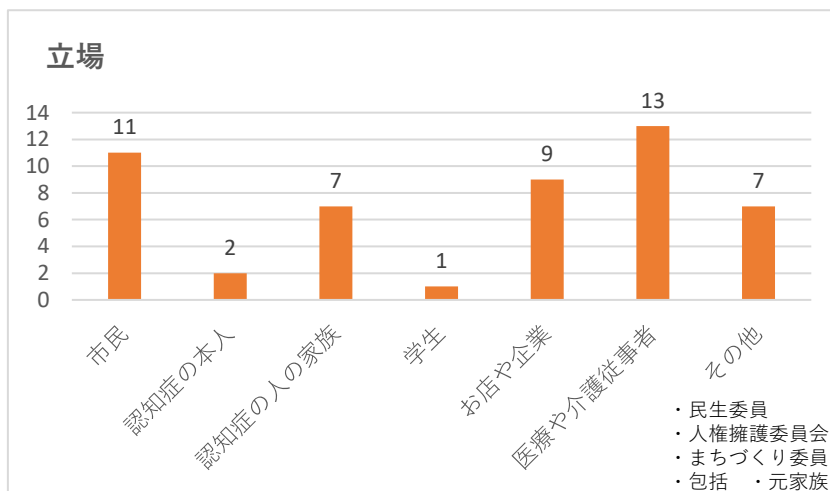
・あなたの年代を教えてください。

10代	1
20代	0
30代	5
40代	7
50代	12
60代	9
70代	12
80代以上	0
合計	46



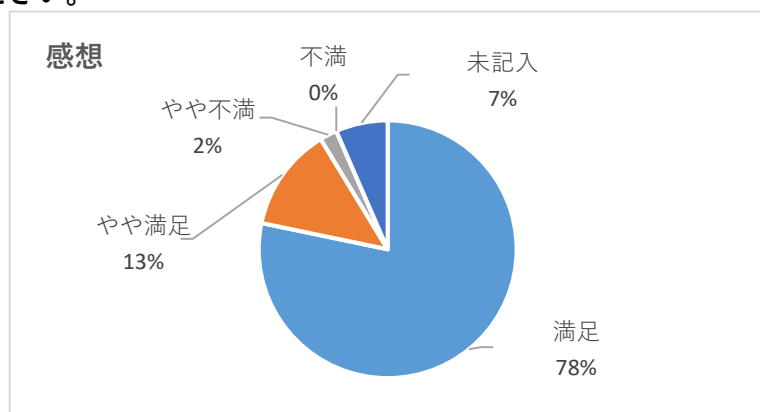
・あなたの立場について教えてください。※複数回答可

市民	11
認知症の本人	2
認知症の人の家族	7
学生	1
お店や企業	9
医療や介護従事者	13
その他	7
合計	50



1. ワークショップの感想についてお答えください。

満足	36
やや満足	6
やや不満	1
不満	0
未記入	3
合計	46



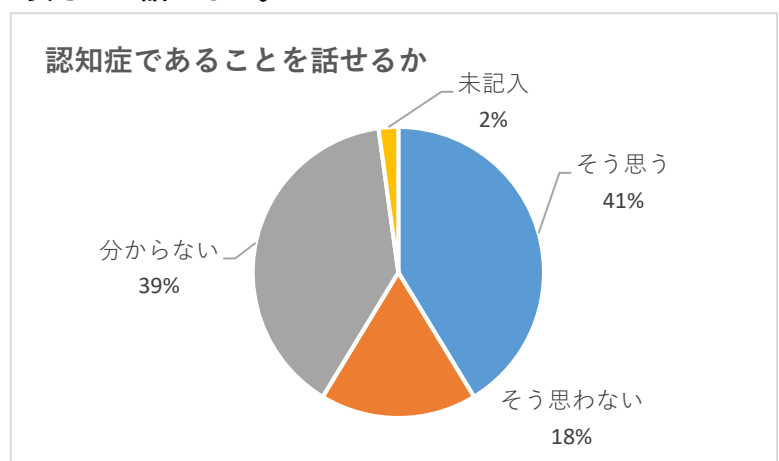
2. 1の理由について

真剣に悩み、苦しい状況、、聞いてくれる方々の柔軟さ、奥行きある方々に出会いました。内村さん、片山さん、望月さん、井澤さん、村松さんありがとうございました。
グループワークをすることで、他の方の考えを理解できて良かった。
いろいろな立場の人の話を聞くことができた。
様々な立場の方々の意見を伺う事ができました。楽しく過ごせるまちづくりができたと思う。
ご家族や本人の話を聞くことで、地域全体で見守ることの大切さ、穏やかに楽しく過ごせることが望むことだとわかった。
色々な意見を聞かせて頂き、参考になりました。また、沢山の情報を知っていきたいと思います。
ご家族様と地域との不満や思いが聞けて良かったです。話合いが出来て、嬉しかったです。
今日来てとても勉強になりました。公務の方が多かったので私個人のためになりました。また、来たいです。
色々な話し聞け良かった。それぞれの立場での意見参考になった。
自分では思いつかない意見、考え方を学んで良かった。
ご本人の方が家族のサポートを受けてスノーボードを楽しむなど自分らしく過ごしているのが素晴らしいと思いました。グループワークでそれぞれの立場で話し合い、多くの社会資源や活動について知ることができた。
当事者の話を聞くことができて理解が深まったと思います。グループワークをして色々な方のお話を聞くことができて理解が深まりました。
様々な立場の方の意見が聞けてとても勉強になった。トークセッションの皆さんにも差し障りのない質問をさせていただける機会があると良かった。認知症の介護の本当の大変さは想像を絶するのできれい事だけではないことも知って欲しいです。
認知症についての色々な立場の人の考え方を知る事が出来て、良かった。
認知症のご家族の意見が聞けて良かった。また、企業への要望も聞けて良かったです。
色々な立場の方々との情報交換ができたと思います。このような関わりが家庭であり、ご近所であり、地域である中で実現できることが基盤だと思いました。
皆さんから積極的な意見が沢山出されていて、認知症についても少しでも理解できた事はとても勉強になりました。環境作りの大切さや地域の取り組みが身近かどうかという意味でも活動のきっかけになれたらと思いました。
年代、性別などの違いを越えて色々な話しが出来て良かったです。専門職、認知症の方が働く企業主などの話、他人事ではない話合いができたと思います。
色々な方の視点で情報共有できて良かったです。
様々な意見を聞けて勉強になりました。特に認知症の人の家族の方のお話が今後の対応に役立てるなと思いました。
様々な方の意見を聞く事が出来て、自分と違った角度からとなり大変参考になりました。
本人の生の声が聞けて学ぶことができた。認知症になっても、楽しく生きたいと希望していることが判った。
グループワーク発表ではみな同じような思いや考えがあることを感じ、この思いが市民一人一人にも伝わっていくと、理解や認知症になっても安心して生活できる街に繋がっていくのではないかと思います。こうしたワークショップに一人でも多くの市民に参加していただけたら、、、。
あまり考えていない中で参加させていただきました。いろいろな立場の人がいて、大変参考になり、これから自分が認知症になった（なる可能性が高い）時に自分への対応が勉強になった。
グループワークで本人の気持ちを引き出すことが少しではあるができたので。

楽しかった。
近所の人達とも認知症の事など話した事が無かったので、積極的に取り組んでいきたいと思いました。
色々な立場の方の話が聞けた事が良かった。日頃、あまり考える事のない課題での議論ができ、良い経験にもなったり、良い体験となりました。
どんな話しをするのか心配して出席しました。色々な職種の人達が出席していました。内容が濃くて有意義な時間でした。
認知症のいろんな視点に気付かされた。
認知症について知らないことが知れて良かったです。
良かったです。ありがとうございます。
当事者の話がとても印象に残りました。
色々な立場の方の話しが聞けました。アイデア、想いがいっぱいでした。
社福の方、NPOの方、ケアマネの方、そして認知症の本人と同じグループで、お話しができ、とても勉強になりました。（個人として、企業として、地域として）
各立場の人たちの意見が聞けて、有意義でした。
いろいろな立場の方の視点を知る事ができました。もっと具体的な話を聞いて、ディスカッションができたらいいなと思いました。
認知症のご本人や家族のお話を聞けて、考え方が変わった。子どもにも今日の事を話そうと思いました。うわべだけでなく本当に困っている家族に市が寄り添って欲しいと思った。
様々な考えを今後どのように活かしていただけるのか期待しています。（過去をその場限りがほとんどで、次につながっていないケースしか見ていないため）
認知症は病気ではあるけれども、個性のひとつと思えば理解が深まると思う。
楽しく学べる場があれば、もっと多くの方に認知症を知ってもらえるのではないかと感じました。今回のワークショップの情報。藤枝市公式LINEで知った。市のLINE結構便利で良く見えています。

3. 認知症であることを周囲の人や身近な地域で安心して話せるか。

そう思う	19
そう思わない	8
分からない	18
未記入	1
合計	46



4. 3の理由について

【そう思う】

内村さん、片山さん、望月さん。井澤さん、村松さん、この会場を支えてくれているスタッフ方々の思いがきっと繋がると信じているからです。
日頃より近所の方とのコミュニケーションを大切にしている。
周囲の環境がそうなれば良いかと思います。世代や町内によって違うかと思う。
自分をさらけ出せば、後はとても楽ではないでしょうか。
隣近所とは、近況を話す関係を作っている。自分のことを知ってもらう事は大切である。認知症になったからと言って、何もできなくなるわけではない。

認知症に優しい街づくりで、沢山の方の思いを知ることができたので、心強く感じたので。
周囲、地域の人との協力を得たいから。
お互い様、地愛の心を育てることが大切だと感じています。
やはり一人でのより、周りの方々にも助けをいただきながら生活していきたいと思います、
そうすることが、自分にとって必要なことになる。
理解をしてもらうには、自分から発信したい。
市民理解の定着が進みそうなので。
一人暮らしゆえ
生活のボリュームが広がると思う。
自分から認知症を発表し、みんなで楽しく過ごしたい。
話した方が関係性を継続できそうだから。
家族だけでは抱えきれないと思いました。

【そう思わない】

そういう関係性ができていないから。
アパート暮らしだと地域の輪に溶け込みにくい。実際、同じアパート別階の高齢者（同居）杖ついて生活大変そうではあるのもなかなか声掛けづらく、助けてあげられない、心苦しい。
これだけ世の中で認知症の事が話題、問題になっていてもまだまだ偏見がある。
やはり自分が認知症と認めたくないから、話を自分からはしないと思うけれど、家族（サポートしてくれる方）が話しをしてくれたら良いなと思いました。
周りの理解が浅いと感じる。
まだまだ地区（家族以外の人）からの理解がない。
地域の認知症に対する理解が進んでいない。偏見がある。
近所との付き合いは少ないので。

【分からない】

今自分の住んでいる地域が、認知症の人に対する理解がどこまで進んでいるか分からないから。
今日のワークで出た意見が実現すれば安心して暮らすことが可能になると思う。
出るのも面倒に思い、ひきこもりそう。
実感がない。家族に相談。
まだ、分かりません。自身がなれば、家族、周りの知人にはなしますが、まだまだ昔と違い今は近所付き合いがなくなりつつある時代です。自分一人では生きていけません。。周りのサポート、周知が重要で必要なことだと思います。
現在の状況からするとまだ不安の方が大きい。そうなって欲しいと思う。
自分が認知症である事が恥ずかしいと思ってしまうかもしれないし、認知症と認めたくないと思うかもしれないから。
まだまだ認知症についての問題が足りないと思ったからです。
話合いで出た内容の環境、人の温かさがあれば話すことができるかもと思いました。
自分が認知症である事を理解できてない。
周りに迷惑をかけたくないと思ってしまう、でもこういった場に参加させて頂き、この取り組みが芽を出していけば安心して話せるのかなと感じました。
そこまで考えていなかったので、、、。
実際になってみないとわからない。
そこまで考えていなかった。

認知症とともに生きる共創のまちづくりワークショップ アンケートまとめ

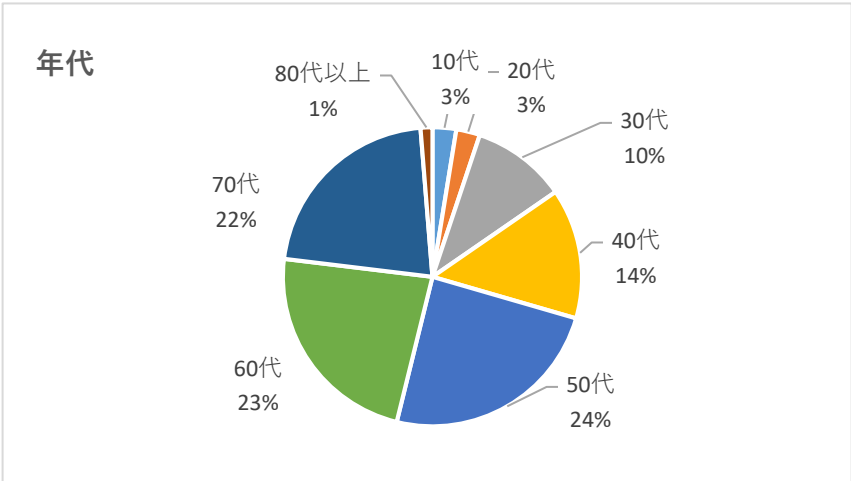
資料 3

	第 1 回	第2回
日 時	令和6年12月15日(日) 14時00分～16時00分	令和7年 2月 3日(月) 14時00分～16時30分
場 所	駅南図書館 集会室	生涯学習センター ホール
参加者	3 9 名	5 4 名

合計 93名
アンケート回収率：84%

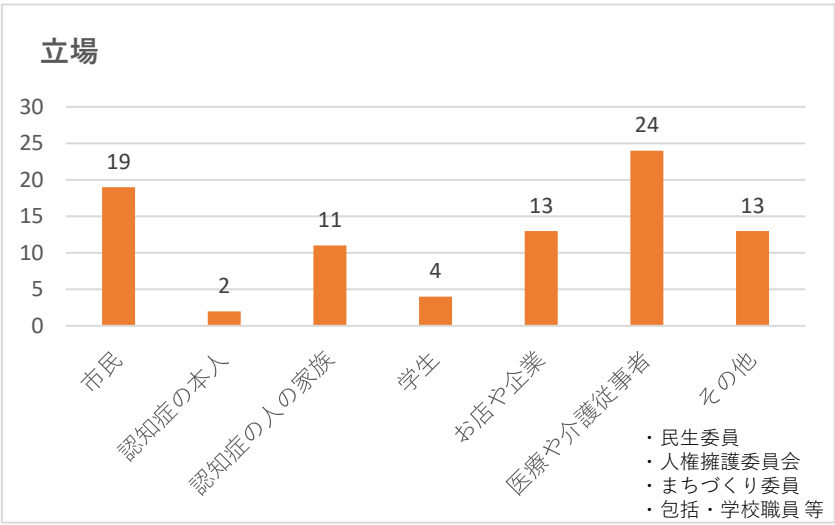
・あなたの年代を教えてください。

10代	2
20代	2
30代	8
40代	11
50代	19
60代	18
70代	17
80代以上	1
合計	78



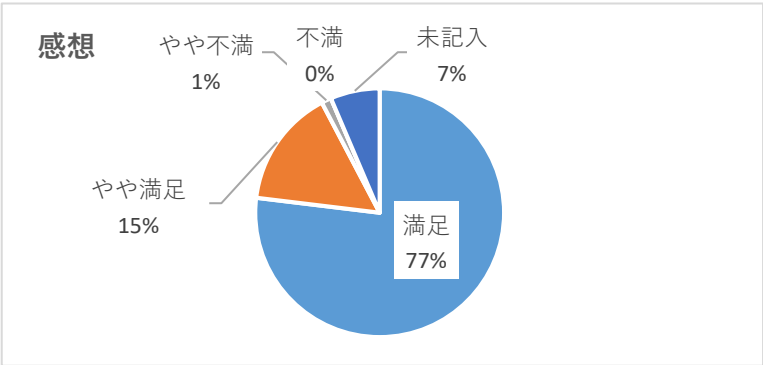
・あなたの立場について教えてください。※複数回答可

市民	19
認知症の本人	2
認知症の人の家族	11
学生	4
お店や企業	13
医療や介護従事者	24
その他	13
合計	86



1. ワークショップの感想についてお答えください。

満足	60
やや満足	12
やや不満	1
不満	0
未記入	5
合計	78



2. 1の理由について

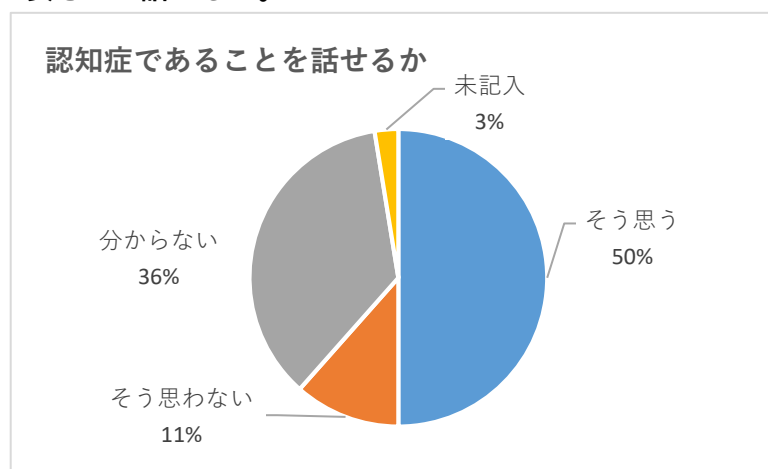
当事者の方々の思いを聞ける貴重な機会でした。Fグループのワークショップもとても充実していました。
普段関わる事のない人もいたので、その方達の意見を聞くことができた。困り事について、多くの意見がでたので業務にも活かしたい。
認知症に関する理解が深まりました。考え方の新たな視点があるのに、気が付きました。
もう少し話し合う時間が欲しかった。
認知症の方の価値観や希望を、知る事ができました。
市民の方の認知症に対する気持ちを聞けて、まだまだ理解がされてないと感じた。新しい考え方をもっと普及していく必要がある。
認知症をともに生きる共創まちづくりで情報共有、交換できたので、このようなことは、今後に活かす事でできそうです。
発表の時間が少なかった。
認知症の理解が深まったとともに、認知症の方の声を実際に聞くことができた為。
時間が少なかったことと、細かい内容を先に連絡して欲しかった。
広く、認知症を知らしめるべき。
認知症家族が今必要だと思う事について、話す事が出来ました。
いろいろの方の意見が聞けて嬉しかったです。
みんな熱心。
グループワークでは話が聞こえずらい。
本人の言葉を聞き大変良かったです。
グループワークで様々な立場での意見を共有できたことは、今後に繋がる。
様々な立場の方の話や意見を聞くことが出来て、勉強になりました。気付きの大切さも再確認しました。
委員会でのお話の中でも、色々聞いていますが、他の方向からの意見が聞けて良かったです。
誰にでも起きる事なので、勉強してみたかった。
それぞれの立場の色々な意見を聞いた事。
始めは緊張しましたが、良い時間が過ごせました。
もっと一般の方の意見を聞けると良い。グループワークの時、周りのグループも話しているので、自分のグループの方の声が聞こえにくい。
このような機会をもってもらった事。次回にも有るので、有れば友達にも知らせてあげたい。
認知症のご本人からの話は、具体的にどんな思いであったのか、どんな感じでののかを知ることができた。認知症への理解といってもテキストにあるようなことだけでは理解は難しく、やはりご本人の声を聴いて理解していくこと、また、具体的に何ができるのかを考えていくことが出来ると思いました。
大人の方々とコミュニケーションをとれ、障害に対して考える機会になりました。認知症になってしまったから人生の終わりとかではなく、周りの人を助け合ったり、優しくしてもらったりと周りの人に支えてもらいながら生きているのだとおもいました。そして、自分でやることはやるなど、前向きな気持ちに、感心な気持ちを抱きました。
当事者の発信が参考になり、生きる力になっているのを感じました。
自分では調べてもでてこない貴重なお話を、関係者の方だけでなく、認知症の当事者の方から、お話を伺うことができた為。
認知症の方ご本人の声を聞くことができた。気づきをたくさんもらえました。グループワークでは、一緒に考えることができた良かったです。

当事者の方の貴重なお話をお聞きすることができ、またグループワークで充実した時間を過ごすことができ、とても有意義な研修会でした。ありがとうございました。
初めて認知症の方、本人の話を聞かせて頂きました。貴重な体験をすることが出来ました。ありがとうございます。
真剣に悩み、苦しい状況、、聞いてくれる方々の柔軟さ、奥行きある方々に出会いました。内村さん、片山さん、望月さん、井澤さん、村松さんありがとうございました。
グループワークをすることで、他の方の考えを理解できて良かった。
いろいろな立場の人の話を聞くことができた。
様々な立場の方々の意見を伺う事ができました。楽しく過ごせるまちづくりができたと思う。
ご家族や本人の話を聞くことで、地域全体で見守ることの大切さ、穏やかに楽しく過ごせることが望むことだとわかった。
色々な意見を聞かせて頂き、参考になりました。また、沢山の情報を知っていきたいと思います。
ご家族様と地域との不満や思いが聞けて良かったです。話合いが出来て、嬉しかったです。
今日来てとても勉強になりました。公務の方が多かったので私個人のためになりました。また、来たいです。
色々な話し聞け良かった。それぞれの立場での意見参考になった。
自分では思いつかない意見、考え方を学んで良かった。
ご本人の方が家族のサポートを受けてスノーボードを楽しむなど自分らしく過ごしているのが素晴らしいと思いました。グループワークでそれぞれの立場で話し合い、多くの社会資源や活動について知ることができた。
当事者の話を聞くことができて理解が深まったと思います。グループワークをして色々な方のお話を聞くことができて理解が深まりました。
様々な立場の方の意見が聞けてとても勉強になった。トークセッションの皆さんにも差し障りのない質問をさせていただける機会があると良かった。認知症の介護の本当の大変さは想像を絶するのできれいな事だけではないことも知って欲しいです。
認知症についての色々な立場の人の考え方を知る事が出来て、良かった。
認知症のご家族の意見が聞けて良かった。また、企業への要望も聞けて良かったです。
色々な立場の方々との情報交換ができたと思います。このような関わりが家庭であり、ご近所であり、地域である中で実現できることが基盤だと思いました。
皆さんから積極的な意見が沢山出されていて、認知症についても少しでも理解できた事はとても勉強になりました。環境作りの大切さや地域の取り組みが身近かどうかという意味でも活動のきっかけになればなと思いました。
年代、性別などの違いを越えて色々な話しが出来て良かったです。専門職、認知症の方が働く企業主などの話、他人事ではない話合いができたと思います。
色々な方の視点で情報共有できて良かったです。
様々な意見を聞けて勉強になりました。特に認知症の人の家族の方のお話が今後の対応に役立てるなと思いました。
様々な方の意見を聞く事が出来て、自分と違った角度からとなり大変参考になりました。
本人の生の声が聞けて学ぶことができた。認知症になっても、楽しく生きたいと希望していることが判った。
グループワーク発表ではみな同じような思いや考えがあることを感じ、この思いが市民一人一人にも伝わっていくと、理解や認知症になっても安心して生活できる街に繋がっていくのではないかと思います。こうしたワークショップに一人でも多くの市民に参加していただけたら、、、。

あまり考えていない中で参加させていただきました。いろいろな立場の人がいて、大変参考になり、これから自分が認知症になった（なる可能性が高い）時に自分への対応が勉強になった。
グループワークで本人の気持ちを引き出すことが少しではあるができたので。
楽しかった。
近所の人達とも認知症の事など話した事が無かったので、積極的に取り組んでいきたいと思いました。
色々な立場の方の話が聞けた事が良かった。日頃、あまり考える事のない課題での議論ができ、良い経験にもなったり、良い体験となりました。
どんな話しをするのか心配して出席しました。色々な職種の人達が出席していました。内容が濃くて有意義な時間でした。
認知症のいろんな視点に気付かされた。
認知症について知らないことが知れて良かったです。
良かったです。ありがとうございます。
当事者の話がとても印象に残りました。
色々な立場の方の話しが聞けました。アイディア、想いがいっぱいでした。
社福の方、NPOの方、ケアマネの方、そして認知症の本人と同じグループで、お話しができ、とても勉強になりました。（個人として、企業として、地域として）
各立場の人たちの意見が聞けて、有意義でした。
いろいろな立場の方の視点を知る事ができました。もっと具体的な話しを聞いて、ディスカッションができたらいいなと思いました。
認知症のご本人や家族のお話を聞けて、考え方が変わった。子どもにも今日の事を話そうと思いました。うわべだけでなく本当に困っている家族に市が寄り添って欲しいと思った。
様々な考えを今後どのように活かしていただけるのか期待しています。（過去をその場限りがほとんどで、次につながっていないケースしか見ていないため）
認知症は病気ではあるけれども、個性のひとつと思えば理解が深まると思う。
楽しく学べる場があれば、もっと多くの方に認知症を知ってもえるのではないかと感じました。今回のワークショップの情報。藤枝市公式LINEで知った。市のLINE結構便利で良く見えています。

3. 認知症であることを周囲の人や身近な地域で安心して話せるか。

そう思う	39
そう思わない	9
分からない	28
未記入	2
合計	78



4. 3の理由について

【そう思う】

ポジティブな意見が聞けて、前向きな気持ちになったから。
地域がopenにできる環境に、進化していくことを望みます。
知識の理解があると感じているので。

市が充役している為。
知ってもらふ事が、認知症の理解になると思う。自分から発信する。
助けていただき、前向きに生きたいから。
住み慣れた地域で安心して生活していくには、周囲の人や身近な地域の人との協力が必須。
周囲の人になんでも話しているから。
これから参考にしていきたいと思います。
伝える事で、社会が変わっていくことを期待して。
皆に支えて欲しいからかな？
多分自分で診断して、理由を公表して、診療所を閉じると思うので。
安心できる街づくりが実現することで、隠すことなく、自分らしく、今までと変わらない生活が送れるといいなと思いました。
優しい人が沢山いるから。
家族だけでは大変。
知ってもらった方が、お互い気持ちが楽だと思った。
かなりためらいがあると思います。しかし、話すことで気持ちも変わると思います。
内村さん、片山さん、望月さん。井澤さん、村松さん、この会場を支えてくれているスタッフ方々の思いがきくと繋がると信じているからです。
日頃より近所の方とのコミュニケーションを大切にしている。
周囲の環境がそうならば良いかと思います。世代や町内によって違うかと思う。
自分をさらけ出せば、後はとても楽ではないでしょうか。
隣近所とは、近況を話す関係を作っている。自分のことを知ってもらふ事は大切である。認知症になったからと言って、何もできなくなるわけではない。
認知症に優しい街づくりで、沢山の人の思いを知ることができたので、心強く感じたので。
周囲、地域の人との協力を得たいから。
お互い様、地愛の心を育てることが大切だと感じています。
やはり一人でいるより、周りの方々にも助けていただきながら生活していきたいと思います、
そうすることが、自分にとって必要なことになる。
理解をしてもらうには、自分から発信したい。
市民理解の定着が進みそうなので。
一人暮らしゆえ
生活のボリュームが広がると思う。
自分から認知症を発表し、みんなで楽しく過ごしたい。
話した方が関係性を継続できそうだから。
家族だけでは抱えきれないと思いました。

【そう思わない】

まだ認知症のある人への理解は十分とは言えず、困っていることや支援、不明な事も多い為。
そういう関係性ができていないから。
アパート暮らしだと地域の輪に溶け込みにくい。実際、同じアパート別階の高齢者（同居）杖ついて生活大変そうではあるのもなかなか声掛けづらく、助けてあげられない、心苦しい。
これだけ世の中で認知症の事が話題、問題になっていてもまだまだ偏見がある。

やはり自分が認知症と認めたくないから、話を自分からはしないと思うけれど、家族（サポートしてくれる方）が話しをしてくれたら良いなと思いました。
周りの理解が浅いと感じる。
まだまだ地区（家族以外の人）からの理解がない。
地域の認知症に対する理解が進んでいない。偏見がある。
近所との付き合いは少ないので。

【分らない】

周りの人の理解がまだ進んでいないと思うから、どこまで理解してくれているかをはかれるものが、わかりやすいものがあると良い。
その時の自分の症状や、家族の気持ちを確認していない為。
切実感が足りない為、もっと理解で深またいと思いました。
どのようになるか、自分で分からない。
地域で話せるかは、繋がりがあまりない事、店舗を経営している事を考えると分からない。
様々な制度はあるがうまく活用できる人、そうでない人がいること。対応する専門職のスキルアップが必要。
自分がどんな風が変わっていくのか、とっても不安。藤枝市がこんなに認知症の方の事を思っているとは、嬉しかったです。
自分になるイメージが具体的にもてていない為。
今自分の住んでいる地域が、認知症の人に対する理解がどこまで進んでいるか分からないから。
今日のワークで出た意見が実現すれば安心して暮らすことが可能になると思う。
出るのも面倒に思い、ひきこもりそう。
実感が無い。家族に相談。
まだ、分かりません。自身がなれば、家族、周りの知人にはなしますが、まだまだ昔と違い今は近所付き合いがなくなりつつある時代です。自分一人では生きていけません。。周りのサポート、周知が重要で必要なことだと思います。
現在の状況からするとまだ不安の方が大きい。そうなって欲しいと思う。
自分が認知症である事が恥ずかしいと思ってしまうかもしれないし、認知症と認めたくないと思うかもしれないから。
まだまだ認知症についての問題が足りないと思ったからです。
話合いで出た内容の環境、人の温かさがあれば話すことができるかとも思いました。
自分が認知症である事を理解できてない。
周りに迷惑をかけたくないと思ってしまう、でもこういった場に参加させて頂き、この取り組みが芽を出していけば安心して話せるのかなと感じました。
そこまで考えていなかったのもので、、、。
実際になっってみないとわからない。
そこまで考えていなかった。

グループワーク① 安心して認知症とともに生きることができるまちに必要なこと

グループワーク② わたしたちにできること

理解

1回目	・ 1人1人が認知症について正しく認識（子どもの頃から） ・ 知る機会がもっと多ければいいなと思う ・ 当事者からのメッセージ ・ 認知症は人生のプロセス ・ 認知症と言わなくても暮らせる理解 ・ 自分もいずれ認知症になるということを理解する ・ 認知症だからってなにもできない人って思わない ・ 認知症になってからも自分らしく生活するための方法があることを知ってほしい	1回目	・ 本人が発信する（当事者のメッセージや工夫を短い動画で作る） ・ 暮らしやすいか、どのようなことがバリアになっているか、本人に聴く ・ 認知症本人の言葉にしっかり耳を傾ける ・ 条例についてもみんなに伝え、共に考えていきたい ・ 認知症に対する見方や考え方を正しく伝える ・ 様々な年代に伝える場を設ける ・ 地域での啓発活動 ・ 認知症のことを学ぶときに介護についても知っておく ・ 今日の学びをできる限り多くの場で発信していくこと ・ 認知症の講演に参加する ・ 一緒に何かをする
2回目	・ 本人がどのようなサポートを必要としているのか理解すること ・ 誰もがなる可能性があり、特別なことではないという共通理解 ・ 認知症に対する偏見を持たない。 ・ 心のハードルもとれるような教育 ・ 認知症に対して理解を持った企業やお店が増える ・ 家族の思いがどのようなものか知ること	2回目	・ 当事者の声を聴き理解を深める ・ 家族の思いを理解してもらうために伝えること ・ 小、中、高校生への啓発活動 ・ 認知症になっても安心ですよという啓発活動、それぞれが活動の場で伝えていく ・ 職場内での認知症についての理解者を増やす ・ 一緒に作業をして共に過ごす ・ 幼稚園、小、中、高校生に触れ合える行事の参加 ・ 家族の中で話をする

グループワーク① 安心して認知症とともに生きることができるまちに必要なこと	グループワーク② わたしたちにできること
---------------------------------------	----------------------

自分の思いを伝え、力を活かす			
1回目	・やりたいことを続けられる ・失敗しても良い環境がある ・本人と一緒に工夫を考えることができる ・認知症にも色々な症状があるが、その人にできることは何かを考えお願いしたり、頼っていくことが大切 ・本人が落ち込まないで希望を持つことができる	1回目	・本人が自分のできることをやる ・分からないことは、伝える ・自分なりの工夫をする ・本人の意思、望む生活をあらかじめ聴いておく、まずは家族で ・個性を大切にする ・困っていることをどうするかより、やりたいことを一緒にやるという視点に変えていく ・できることを止めさせてしまわないようにする
2回目	・認知症になってからも、自分の意思が尊重される ・自分のやりたいことを選択できる ・本人ができることを続けることができる ・暮らしたい場所で暮らすことができる ・自分から進んで社会に出ていく ・好きなこと、得意なことが続けられる	2回目	・事前に自分の意思を伝える ・自分の思いを相手に伝える ・地域で暮らすために本人の気持ちを聴くこと、望む暮らしを聴く ・本人の意思を尊重する ・先回りしてやってしまうのではなく待つ ・やれることをうばわない、やれることはやり続けてもらう

つながりと支え合い			
1回目	・できないところを分かってくれる ・助け合いが自然にできる ・認知症と言わなくてもいい ・相手を思いやる気持ちをたくさん持った人がいる ・ありがとう、お願いの言える地域 ・柔軟に声かけられる ・同じ立場で生活が続けられるまち ・困りごとを抱えた人がいたら、協力できる人が増えたらいい	1回目	・自分の家の周りの人に挨拶をする、近所との挨拶 ・同じ班の人の名前を覚える ・地区の行事、近所づきあいに参加する、防災訓練等 ・困っている人がいたら声をかける（道迷い、気になる人がいたら） ・会うことが少なくなった近所の方へ声をかけてみる・話し相手になる ・偏見を持たず、普通のこととして接する・相手に合わせた話し方で接する ・家族の方の思いを汲む ・さりげないサポート、サポートを頼んでも良いと感じる対応 ・移動支援や買い物支援などしていきたい ・高齢者(1人暮らし)の方に近所づきあいの中で、食事やゴミ出しの手伝いをする ・住んでいる地域の人が見守りをする
2回目	・声がかけやすい雰囲気・気軽に声をかけ合える ・大人も子どもも気軽に話せる関係 ・挨拶などで日常からのつながりがある・隣近所の方との関係を築く ・一人ぼっちにならない ・お互いに助け合える・地域に見守ってくれる体制がある ・回覧板、子ども、老若男女のつながりがある ・困っているときに手を差し伸べてくれる人たちがどこにいてもいること	2回目	・地域の行事に参加し、顔の見える関係を作っておく ・地域とのつながりを継続していけるようにする ・地域で考える活動は参加しやすい活動に工夫し、積極的な参加を呼びかける ・年齢に関係なくコミュニケーションをとる ・今まで続けてきたボランティア活動を継続する ・同じ立場に立つ ・本人や家族が孤立しないようサポート

グループワーク① 安心して認知症とともに生きることが出来るまちに必要なこと	グループワーク② わたしたちにできること
---------------------------------------	----------------------

つながりあえる場所			
1回目	・本人も家族もそうでない人も、垣根を作らず、集えるようになる ・本人や家族や、経験や辛さを話せる場所、聞ける場所があるまち ・本人・家族同士で共感しあえる場所がある ・コミュニティや活躍できる場がある	1回目	・本人同士や家族同士が集まれる場所について周知する ・介護家族の会の活動が続けること ・居場所に参加する
2回目	・認知症になってからも居場所がある ・認知症の人もそうでない人も一緒に何か取り組める場所が身近にある ・高齢者と小学生が交流できる場所がある ・みんなが集える場所や、公園がある	2回目	・サロンなどの集いの場を知らせていく ・身近な施設を活用しての茶話会 ・居場所や家族会の活動を継続すること ・今やっている活動を継続し、認知症になってからも一緒に活動をする

外出			
1回目	・行きたいところに自由に行ける仕組み、車が運転できなくても困らないまち ・いつでも安心して移動できる交通手段 ・買い物、散歩、疲れたときに休める場所等、気軽に出かけられるまち ・水路等の蓋、安全な歩道などの環境	1回目	・認知症で外に出て迷ってしまう人に対する具体的な対策を考える ・1人で外に出ても大丈夫のように名前や住所が分かるようにする ・買い物や散歩など、疲れた時に休める場所がある ・迷子になったときに声をかけてもらえて嬉しかった
2回目	・外出しても必ず家に戻れる ・認知症を気にせず（一人でも）外出できる ・運転免許を返納しても気軽に外出ができる ・車から命が守れるまち	2回目	・外に出るチャンスを作る ・外出するときに一緒に行こうと声をかける ・道に迷っている人には声をかける

社会参加			
1回目	・本人には、周りには分かりづらい障壁が沢山あることを理解する（セルフレジが暮らしの中でのバリア、トイレトペーパーの場所がわかりづらい） ・買い物、スーパーでの支払いが安心してできる ・スーパー、銀行、乗り物、役所、認知症にやさしいまちづくり ・苦手なところを手伝ってくれる仕組みがある ・お金の管理のお手伝いができる仕組みがある	1回目	・本人に助けてほしいことを教えてもらう、知る ・認知症の人が安心して買い物のできる店舗づくり ・公共サービスやスーパー等のよく利用する施設におけるユニバーサルデザイン化 ・ヘルプカードに対する理解と浸透
2回目	・分からないことが増えても気軽に買い物ができる ・人も環境もバリアフリーなまち ・企業やお店が本人の立場に立ってサービスを提供してくれる	2回目	・当事者の声から、お店や企業で解決できることはないか考える ・レジでのんびりしててもイライラしない、急かさない ・環境を変えない

グループワーク① 安心して認知症とともに生きることが出来るまちに必要なこと	グループワーク② わたしたちにできること
---------------------------------------	----------------------

働くこと			
1回目	・仕事を続けられる周囲（職場）の理解 ・認知症になってからも働ける職場 ・軽度認知症の人が働ける場所がある ・できることの範囲で認知症になっても働ける社会がある	1回目	・認知症の本人たちの工夫を集めて公開する(データベース) ・その人らしさを大切にできる環境づくり
2回目	・若年性認知症になったときでも継続して働ける社会 ・職場が育児や介護に理解がある ・仕事と介護・育児などが両立できる環境がある ・介護しながら働くことを続けられる	2回目	・同僚として話を聴く ・職場の理解を図り、同じところで仕事を続けられるサポート ・企業同士で働きやすい職場についての取り組みなどを話し合う ・（働きながら介護をしている人に）介護休暇、休業について説明する ・制度を利用しやすくする組織の理解

家族のサポート			
1回目	・家族だけでなく社会全体でみる ・家族の悩みや愚痴を聞いてもらえる人や場所がある ・家族の方へのケアが充実している ・認知症の家族として困っているとき、スムーズに受け入れてくれる施設がある	1回目	・家族の話聞き、思いを汲む ・家族の会を続けること ・家族として困った時は積極的にヘルプを求める ・家族の悩みや思い、困っていること等を話しても良いと思ってもらえること ・家族が認知症であることを隣近所に伝える ・男性介護者が孤立せず、繋がれるように声をかけあう
2回目	・家族が負担や負い目を持たずに生活できる ・介護を一人で担わない	2回目	・頼れるところは頼る ・家族経験者としてこうしたら楽になった等を伝える ・介護している人と一緒に食事をしたりして、気分転換できるよう声をかける

グループワーク① 安心して認知症とともに生きることができるまちに必要なこと	グループワーク② わたしたちにできること
---------------------------------------	----------------------

相談			
1回目	・困っている人が自分から意思表示ができる ・困った時に頼める人がいる、相談できる環境 ・早い段階から気軽に行ける窓口がある ・発症したときに相談できる場所に適切に繋げる仕組みがある ・どこに何を相談できるか分かりやすいこと ・気軽に相談できる場所、本人が自分で相談しやすい場所がたくさんある ・認知症を正しく診てくれる医療機関がある ・認知症だということを言える(分かってもらえる)環境	1回目	・困った時に「この人になら言っても良い」、相談できる人を身近に作っておく ・困った時は相談できる場所があることを知ってもらうように発信する ・ちょっとだけお節介になる ・かかりつけ医への啓蒙 ・関係機関との連携 ・家族との連携 ・医療と福祉の連携 ・早期発見、適切な福祉サービス等へつなげること ・家族以外に本人を支えるチーム作り ・地域で支えるためのチーム作り
2回目	・友人や近所の人に伝えられる、相談が気軽にできる環境 ・不安になったり、忘れっぽくなったときに気軽に相談できる場所がある ・認知症に対する適切な医療を受けられる	2回目	・プライベートな集まりで相談窓口や制度のこと等を伝える ・近所で困りごとがあれば安心すこやかセンターへ相談するよう伝える ・早い段階から支援の窓口を知って繋がっておく ・民生委員さんと顔の見える関係づくり ・相談しやすいよう、窓口の場所や日時を考える ・興味のあること、やりたいことの行先を紹介する ・風通しの良い施設にする

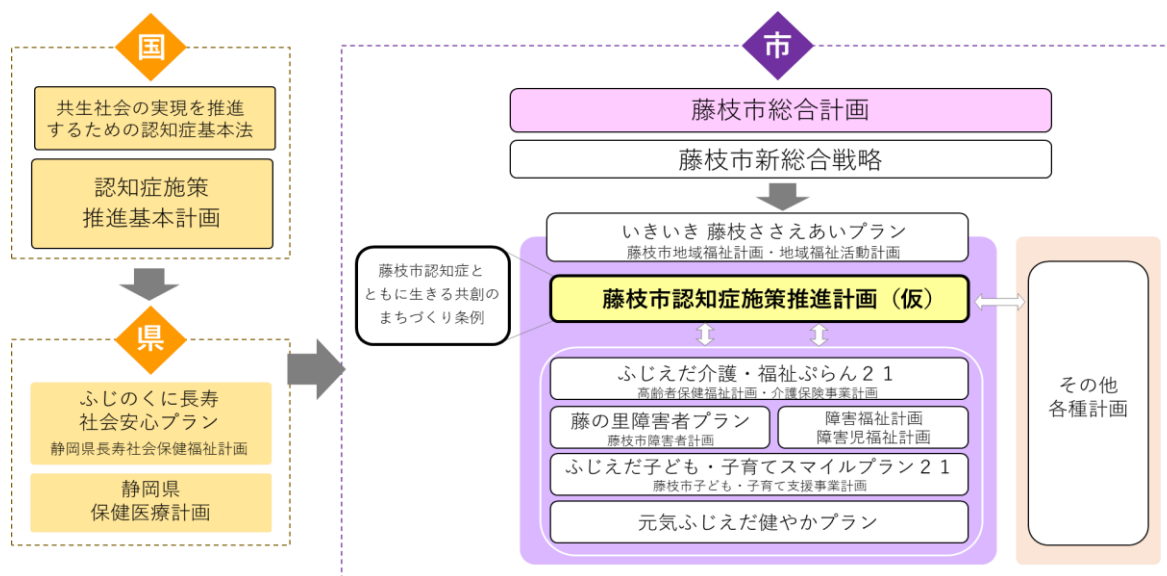
住まい	
2回目	自宅に住み続けるためのサポーターがいる 安心して住み続けられる住宅整備の助成 同居していなくても見守りができるシステムの助成

災害			
2回目	・命が守れるまち	2回目	・災害について一緒に考える ・可能なら災害時一緒に避難

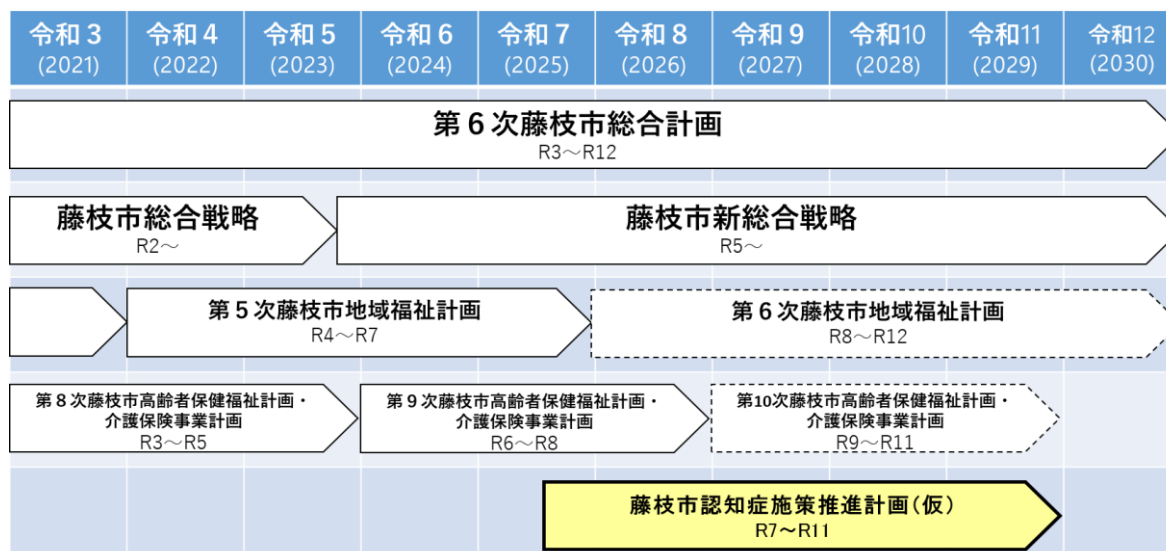
地域包括ケア推進課

認知症の人を含む全ての市民等が世代や立場を超えて、共に創る共生社会の実現を目指し、認知症施策を中長期的なビジョンで総合的に推進するため、この計画を策定します。

本計画は、「共生社会の実現を推進するための認知症基本法」及び「藤枝市認知症とともに生きる共創のまちづくり条例」に基づき、本市の上位計画である「藤枝市総合計画」及び「藤枝市地域福祉計画」と整合を図りながら、「ふじえだ介護・福祉ぶん21」、「藤の里障害者プラン」等の関連計画との連動・調和を図り策定するものです。



この計画は、令和7年度（2025）から令和11年度（2029）までの5年間を計画期間とします。



目指す姿

- ・安心して認知症とともに生きることができるまち

基本理念（条例第3条）

- ・全ての認知症の人が、基本的人権を享有する個人として、その個性と能力を十分に発揮し、様々なことに挑戦し、自分らしく暮らし続ける。
- ・認知症とともに生きることへの多様な主体の理解を深め、世代や立場を超えて、全ての市民が暮らしやすいまちを共創する。
※共創：市及び多様な主体がそれぞれの個性と能力を発揮し、創意工夫により新たな発想や取組、仕組みを創出することをいう。

施策を進めていく上での姿勢

- ・一人ひとりが認知症を自分ごととして考える
- ・本人の声を聴き、本人の経験や考えを基にともに考える。
- ・世代や分野を超えてつながり、横断的な取組として考える。

基本方針

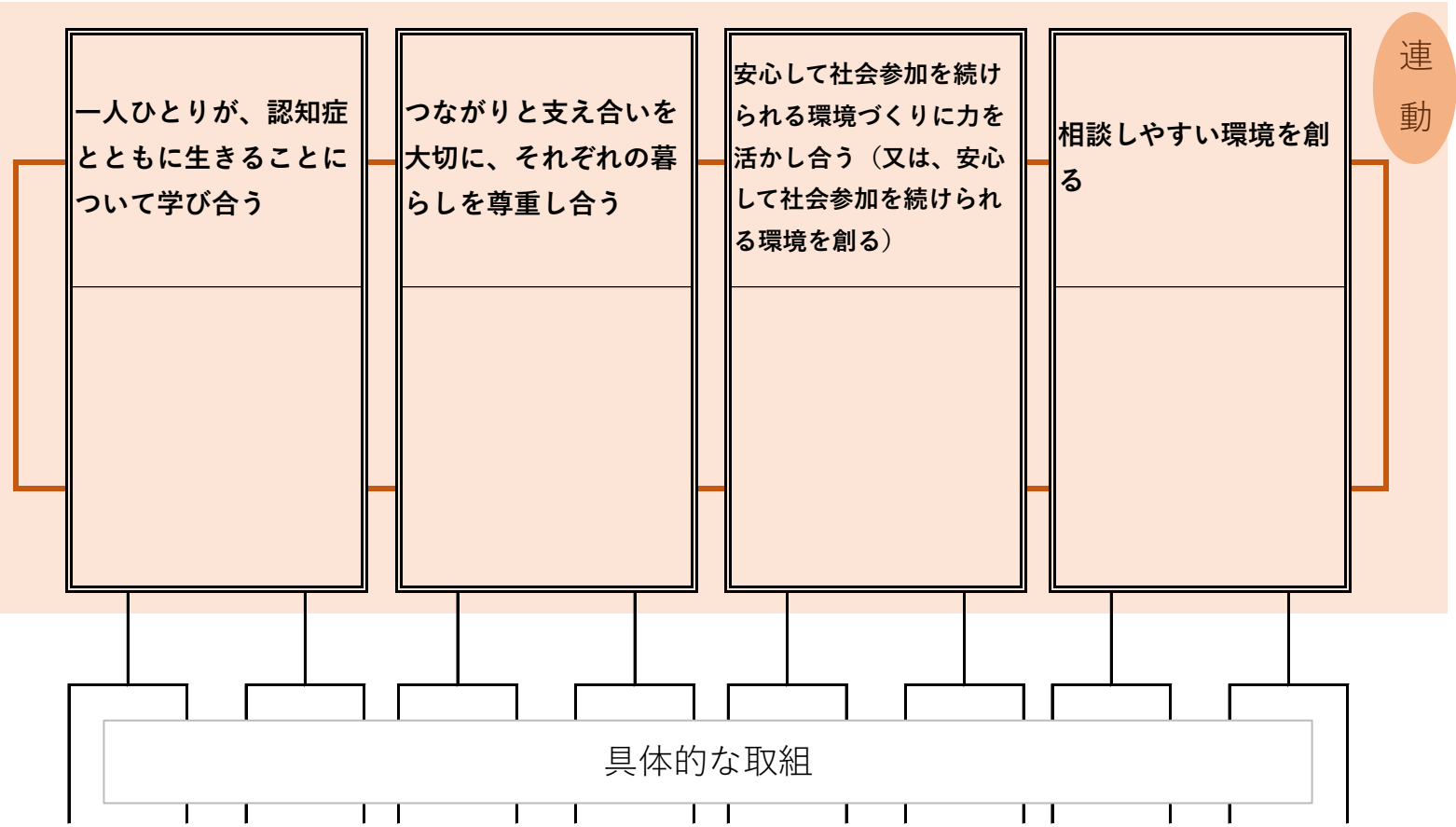
- ・一人ひとりが、認知症とともに生きることについて学び合う
- ・つながりと支え合いを大切に、それぞれの暮らしを尊重し合う
- ・安心して社会参加を続けられる環境づくりに力を活かし合う
（又は、安心して社会参加を続けられる環境を創る）
- ・相談しやすい環境を創る

施策の体系図

目指す姿

安心して認知症とともに生きることができるまち

基本方針



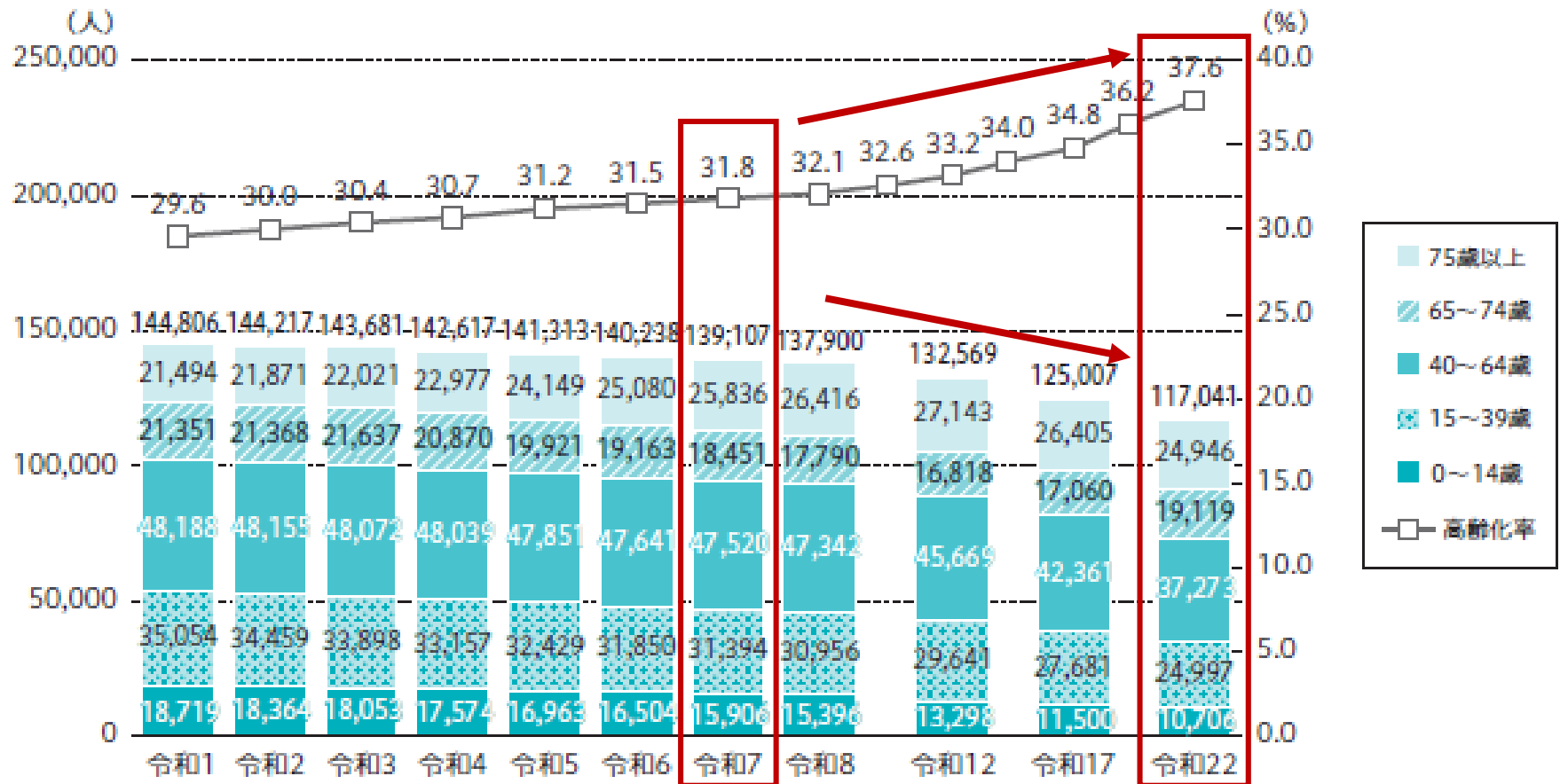


わたしたちがこれから迎える社会

資料 6

～藤枝市の年齢別人口と将来推計～

- 総人口 139,870人、うち高齢者人口 44,178人、**高齢化率31.6%** (令和7年1月1日 現在)
- **総人口**は**減少傾向**となる一方、**高齢者人口**は**増加傾向**となることが予測
- **高齢化率**は、令和22年には37.6%となる見込み



資料:藤枝市住民基本台帳(各年9月30日時点、令和6年以降が推計値)

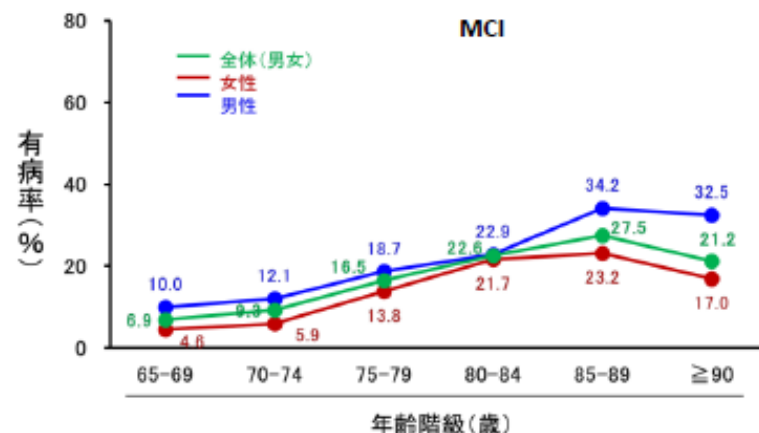
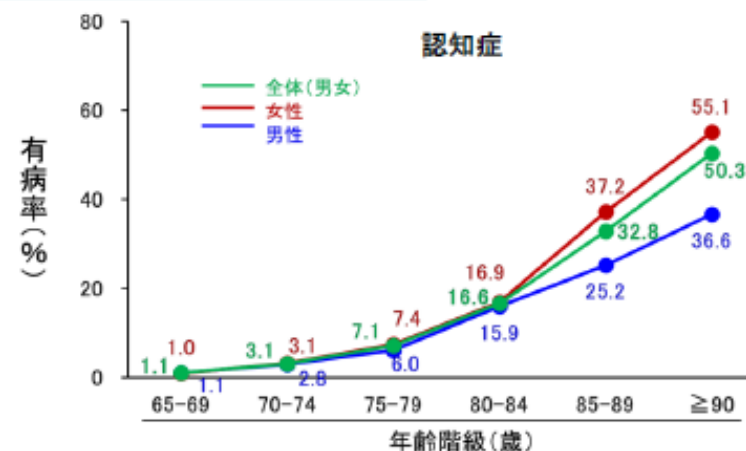
認知症および軽度認知障害(MCI)の高齢者数と有病率の将来推計

- 2022年に認知症の地域悉皆調査(調査率80%以上)を実施した4地域(福岡県久山町、石川県中島町、愛媛県中山町、島根県海士町)において、新たに推計した、2022年の高齢者における認知症有病率(性年齢調整後)は、12.3%であり、また、高齢者におけるMCI有病率(性年齢調整後)は、15.5%であった。
- 2022年の認知症およびMCIの性年齢階級別有病率が今後も一定と仮定した場合、2040年の認知症者高齢者数は584.2万人、MCI高齢者数は612.8万人と推計された。

※ 軽度認知障害(MCI):もの忘れなどの軽度認知機能障害が認められるが、日常生活は自立しているため、認知症とは診断されない状態。

認知症とMCIの有病率の合計値は約28%(2022年時点)であり、「誰もが認知症になり得る」という認識のもと、認知症になっても生きがいや希望を持って暮らすことができるよう、認知症バリアフリーの推進、社会参加機会の確保等、認知症基本法に掲げる理念・施策の推進に取り組んでいくことが重要。

年齢階級別の有病率(2022年時点)



高齢者数と有病率の将来推計

年	令和4年 (2022)	令和7年 (2025)	令和12年 (2030)	令和22年 (2040)	令和32年 (2050)	令和42年 (2060)
認知症高齢者数	443.2万人	471.6万人	523.1万人	584.2万人	586.6万人	645.1万人
高齢者における 認知症有病率	12.3%	12.9%	14.2%	14.9%	15.1%	17.7%

年	令和4年 (2022)	令和7年 (2025)	令和12年 (2030)	令和22年 (2040)	令和32年 (2050)	令和42年 (2060)
MCI高齢者数	558.5万人	564.3万人	593.1万人	612.8万人	631.2万人	632.2万人
高齢者における MCI有病率	15.5%	15.4%	16.0%	15.6%	16.2%	17.4%

資料:「認知症及び軽度認知障害の有病率調査並びに将来推計に関する研究」(令和5年度老人保健事業推進費等補助金 九州大学 二宮利治教授)より厚生労働省にて作成

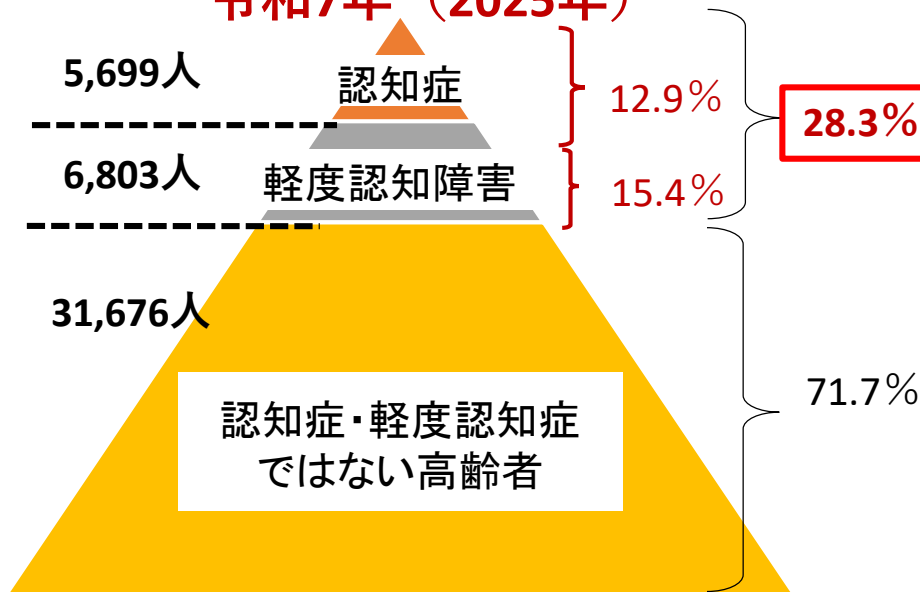


わたしたちがこれから迎える社会

～藤枝市の認知症有病率の将来推計～

令和5年度老人保健事業推進費等補助金「認知症及び軽度認知障害の有病率調査並びに将来推計に関する研究」

令和7年（2025年）

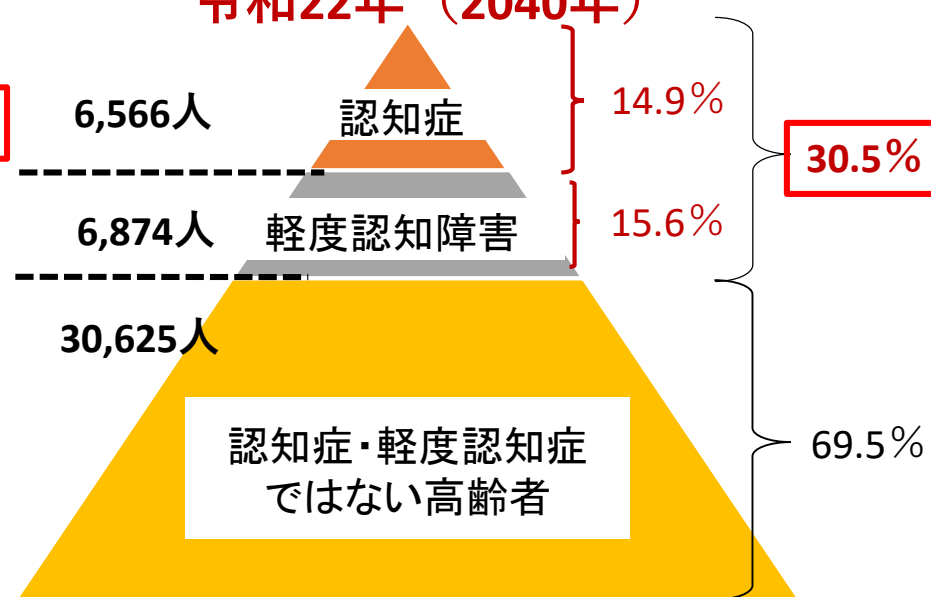


65歳以上高齢者44,178人

※3.5人に1人が認知症か軽度認知障害

認知症・軽度認知障害 < 0～14歳
(12,502人) (16,249人)

令和22年（2040年）



65歳以上高齢者44,065人

※3.3人に1人が認知症か軽度認知障害

認知症・軽度認知障害 > 0～14歳
(13,440人) (10,706人)

- 数が増えることは、マイナスのことばかりではない。 ➡ **特別なことではない。**
- （認知症の人は）困った人ではなく、認知症とともに生きる**体験を活かし**
何が大切か、経験や知恵を教えてください人の存在が増えていく。

※軽度認知障害（MCI）：もの忘れなどの軽度認知障害が認められるが、日常生活は自立しているため、認知症とは診断されない状態。



藤枝市認知症施策推進計画（仮） 基本方針のキーワード

キーワード：安心して認知症とともに生きることができまちに必要なこと		基本方針 ※計画における基本的な方針
※相互に関連	理解	・ 一人ひとりが、認知症とともに生きることについて学び合う
	自分の思い伝え、力を活かす	・ つながりと支え合いを大切に、それぞれの暮らしを尊重し合う
	つながりと支え合い	
	つながり合える場所	
	外出	・ 安心して社会参加が続けられる環境づくりに力を活かし合う 安心して社会参加が続けられる環境を創る
	社会参加	
	働く	
	家族のサポート	・ 相談しやすい環境を創る
	相談	

- ・ 子どもからお店や企業も1人1人が理解を深める ・ 知る機会がある
- ・ 誰もがなる、特別なことでない
- ・ 認知症になってからも自分らしく暮らすための方法がある

- ・ 意思が尊重される・やりたいこと、できることを続けられる
- ・ 失敗してもよい ・ 希望を持てる
- ・ 自分から進んで社会に出ていく

- ・ 気軽に声をかけあえる・挨拶などで日常からのつながりがある
- ・ 地域の見守り体制 ・ 同じ立場で生活が続けられる
- ・ 自然な助け合い

- ・ 本人も家族もそうでない人も垣根を作らず集える
- ・ 本人、家族同士で出会い交流できる場所がある
- ・ 子どもと交流できる場がある

- ・ 認知症を気にせず外出できる ・ 外出しても必ず家に戻れる
- ・ 買い物、散歩、疲れた時に休める場所等、気軽に出かけられるまち
- ・ 水路等の蓋、安全な歩道等の環境 ・ 安心して移動できる交通手段

- ・ 買い物が安心してできる ・ 苦手なところを手伝ってくれる仕組みがある
- ・ 人も環境もバリアフリーなまち
- ・ 本人は周囲に分かりづらいバリアがあることを理解する

- ・ 仕事を続けられる周囲の理解がある・介護しながら働き続けることができる
- ・ 認知症になってからも継続して働ける社会

- ・ 家族だけでなく社会全体でみる ・ 介護を一人で担わない
- ・ 負担や負い目を持たず生活できる

- ・ 困っている人自ら意思表示できる ・ 認知症だということを言える環境
- ・ 不安、忘れっぽくなったとき、気軽に相談できる場所がある
- ・ 友人や近所の人に伝えられる